



ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団  
**LONDON PHILHARMONIC ORCHESTRA**

首席指揮者：クルト・マズア  
**Principal Conductor : KURT MASUR**

**Pioneer**  
sound. vision. soul





# ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団

## LONDON PHILHARMONIC ORCHESTRA



首席指揮者：クルト・マズア

Principal Conductor : KURT MASUR

提供：神原音楽事務所  
後援：ブリティッシュ・カウンシル

今回のロンドン・フィルハーモニー管弦楽団日本ツアーはパイオニア株式会社の協賛により行われます。



ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団  
LONDON PHILHARMONIC ORCHESTRA

首席指揮者：クルト・マズア  
Principal Conductor : KURT MASUR



10/16 四 6:30pm 盛岡市民文化ホール 大ホール

主催 (財)盛岡市文化振興事業団  
共催 盛岡市/盛岡市教育委員会/岩手日報社  
後援 テレビ岩手/エフエム岩手  
協賛 岩手銀行/川徳

ベートーヴェン：交響曲 第9番 ニ短調 作品125「合唱」  
Beethoven : Symphony No.9 in D minor Op.125 "Choral"

I Allegro ma non troppo e un poco maestoso  
II Molto vivace  
III Adagio molto e cantabile  
IV Presto — Allegro ma non troppo — Allegro assai

ソプラノ：中村智子  
Soprano : TOMOKO NAKAMURA

メゾ・ソプラノ：永井和子  
Mezzo Soprano : KAZUKO NAGAI

テノール：ウーヴェ・ハイルマン  
Tenor : UWE HEILMANN

バリトン：河野克典  
Bariton : KATSUNORI KONO

合唱：パイオニア合唱団  
Chorus : PIONEER HARMONISCHER CHOR

合唱指揮：岡本俊久  
Chief Chorus Master : TOSHIIHISA OKAMOTO

合唱指導：國土潤一  
Chorus Master : JUNICHI KOKUDO

合唱：盛岡バッハ・カンタータ・フェライン  
Chorus : MORIOKA BACH KANTATEN VEREIN

合唱指揮：佐々木正利  
Chorus Master : MASATOSHI SASAKI



10/17 水 7:00pm サントリーホール

主催 神原音楽事務所

ベートーヴェン：交響曲 第9番 ニ短調 作品125「合唱」  
Beethoven : Symphony No.9 in D minor Op.125 "Choral"

- I Allegro ma non troppo e un poco maestoso
- II Molto vivace
- III Adagio molto e cantabile
- IV Presto — Allegro ma non troppo — Allegro assai

ソプラノ：中村智子  
Soprano : TOMOKO NAKAMURA

メゾ・ソプラノ：永井和子  
Mezzo Soprano : KAZUKO NAGAI

テノール：ウーヴェ・ハイルマン  
Tenor : UWE HEILMANN

バリトン：河野克典  
Bariton : KATSUNORI KONO

合唱：パイオニア合唱団  
Chorus : PIONEER HARMONISCHER CHOR

合唱指揮：岡本俊久  
Chief Chorus Master : TOSHIHISA OKAMOTO

合唱指導：國土潤一  
Chorus Master : JUNICHI KOKUDO

10/18 木 7:00pm サントリーホール

主催 神原音楽事務所

ブリテン：シンプル・シンフォニー 作品4  
Britten : Simple Symphony Op.4

- I Allegro
- II Presto possibile—Molto pesante
- III Poco lento e pesante
- IV Prestissimo con fuoco

チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品35  
Tchaikovsky : Violin Concerto in D major Op.35

ヴァイオリン：サラ・チャン  
Violin : SARAH CHANG

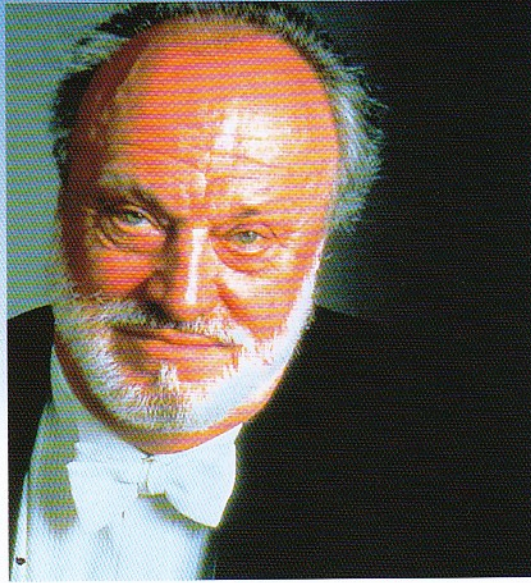
- I Allegro moderato
- II Canzonetta: Andante
- III Allegro vivacissimo

\* ◆ \*

ドヴォルザーク：交響曲 第8番 ト長調 作品88  
Dvořák : Symphony No.8 in G major Op.88

- I Allegro con brio
- II Adagio
- III Allegretto grazioso
- IV Allegro ma non troppo





首席指揮者

## クルト・マズア

Principal Conductor : KURT MASUR

クルト・マズアは同時代において最も広く親しまれ、尊敬されている音楽家の一人で、優秀な指揮者としてばかりでなく、ヒューマニストとしてもオーケストラや聴衆に知られている。1991年に音楽監督に就任して以来、ニューヨーク・フィルハーモニックとは、緊密で情熱的な関係を築き、その合奏水準と芸術的精神を高めたとの高い評価を得ている。

彼は何年もの間、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の音楽監督兼首席指揮者を務めたが、このポストは、かつてメンデルスゾーン、ニキシュ、フルトヴェングラー、ワルターといった錚々たる面々が歴任している。1996年引退する際、ゲヴァントハウスは彼を初代名誉指揮者に選んだ。1989年東西ドイツ統一への平和デモで中心的な役割を果たして以来、マズアの指導者としての影響力は世界の注目を浴びた。1995年ドイツ連邦共和国より功労勲章十字章、1996年連邦芸術クラブより音楽名誉勲章金メダル、1997年にはフランス政府よりレジオンドヌール勲章を授与され、またニューヨーク市よりニューヨーク市文化大使に任命された。1999年4月、ポーランドのヴロツワフにて、同国の最高位の功労勲章大十字章を授与された。マズアは故郷ブゼクの名誉市民でもある。1992年以来イスラエル・フィルの名誉客演指揮者としての終生ポストを得ており、2000年9月、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者に就任した。2002年からはフランス国立管弦楽団の音楽監督にも就任する。

世界中の主要なオーケストラで客演指揮者として積極的に活動を行っており、アメリカでのデビューは1974年に、クリーヴランド管弦楽団を指揮し、また、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の初めてのアメリカツアーを行った。ニューヨーク・フィルハーモニックでのデビューは1981年で、1998年6月シティ・バンクがスポンサーとなったアジアツアーでは、同オーケストラを率いて初の中国公演を行っている。

2000年から2001年のシーズンは、イスラエル・フィルハーモニー管弦

楽団のシーズンのオープニング・コンサートと、2001年1月には、1996年以来初めてライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団を指揮し、また、2、3月にはロンドン・フィルハーモニー管弦楽団との英国及びヨーロッパ公演も行っている。

ニューヨーク・フィルハーモニックとの共演によるレコーディングは数多く、最近ではショスタコーヴィチの交響曲第7番(レニングラード)、ブリテンの戦争レクイエムや、ピアニスト、ファジル・サイと共演したガーシュインの作品などがある。ショスタコーヴィチの交響曲第13番(パピ・ヤール)やマーラーの交響曲第9番は、ステレオ・レビューのレコード・オブ・ザ・イヤーを受賞した。また、ベートーヴェン、ブラームス、ブルックナー、メンデルスゾーン、シューマン、チャイコフスキーの交響曲全集も録音している。

マズアは1927年、ポーランド・シュレジエン地方のブゼクに生まれ、ライプツィヒ音楽院で、ピアノ、作曲、指揮を学んだ。ハレ州立劇場、エアフルト市立歌劇場、ライプツィヒ市立歌劇場での指揮者を歴任後、1955年ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団の指揮者に就任。その後1958年にはオペラに戻り、シュウェリーンのメクレンブルク州立歌劇場総監督となった。1960年から1964年にはベルリン・コーミッシェ・オペラの音楽監督を、1967年から1972年まではドレスデン・フィルハーモニーの首席指揮者を務めた。1975年からライプツィヒ音楽アカデミーの教授となり、プレスラウ音楽アカデミー、クリーヴランド音楽院、コルゲート大学、ハミルトン大学、インディアナ大学、ジュリアード音楽院、ライプツィヒ大学、マンハッタン音楽学校、ミシガン大学、ウェストミンスター合唱大学、ニューヨーク州立大学ビンガトン校、およびイェール大学から名誉学位を得ている。





## ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団 LONDON PHILHARMONIC ORCHESTRA

ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団は、「ウィーンやベルリンのオーケストラに匹敵するロンドンのオーケストラを」という意志のもとに、ピーチャムによって国内の優秀な演奏者を集めて創設された。1932年10月7日のデビュー・コンサートは、「クイーンズ・ホール」の聴衆は立ち上がって、ある者は席の上に上って拍手をおくった」と今でも語り草となっており、以来数十年にわたってロンドンの音楽界を席捲してきた。

1940年にはピーチャムがアメリカに渡り、楽団の存亡が危ぶまれたが、自ら民主的な協同組合を設立し、独自に公演を催し活動を始めた。以来、ボルト、プリッチャード、ハイティンク、ショルティ、テンシュテットといった首席指揮者達と無類の組み合わせを次々と生みだしてきた。1990年から1996年までは、メストが音楽監督を務め、2000年9月、クルト・マズアが新しい首席指揮者に就任した。ロンドン・フィルは、1992年9月からロイヤル・フェスティバル・ホールのレジデント・オーケストラとして、9月から5月まで定期演奏会を行っている。また、夏季は37年間にわたりサセックスのグラインドボーン音楽祭歌劇場のレジデント・オーケストラとして演奏しており、このオーケストラの柔軟性を如実に物語っている。また、イギリス国内各所でも公演を行っており、イーストボーンのコングレス・シアターでのレジデント・オーケストラも務めている。海外においても、他に例がないほどの公演をこなしてきた。戦前はベルギーやドイツで演奏活動を行っていたが、その20年後にイギリスのオーケストラとしては初のロシア・ツアーを行い、1973年にはヨーロッパのオーケストラとして

初めて中国を訪問。以来アメリカ、ヨーロッパ諸国、日本で数多くのツアーをこなし、インド、香港、オーストラリア、南アフリカも訪問している。最近では、ハイティンクとのスイス公演、マズアとのベルリン音楽祭のオープニング・コンサートやルツェルン音楽祭でのコンサート、テミルカーノフとのブリュッセル公演などに出演。さらに、韓国、イタリア、ドイツでの公演も成功を収めている。マズアとの今後の予定は、韓国、イスタンブール、北米での公演の他、2002年秋シンガポール・ベイのエスプラナード劇場のオープニング・コンサートの出演も予定されている。

録音においても常に高い評価を得ており、近年もラトル、ハイティンク、サヴァリッシュ、テンシュテット、メストらと共に数々の賞を獲得している。今年度ロサンゼルスで、チック・コリアの“Spain for Sextet and Orchestra”や、ノリントン指揮、ジョシュア・ベルをソリストに迎えてのニコラス・モーのヴァイオリン協奏曲の録音で、グラミー賞を受賞した。映画音楽の分野においても、過去には「アラビアのロレンス」「ザ・ミッション」「フィラデルフィア」「イン・ザ・ネーム・オブ・ザ・ファーザー」「イースト・イズ・イースト」「ザ・セル」や、最近では「ザ・ヤード」などのサウンドトラック録音も行っている。教育関連事業にも力を入れており、学校コンサート、ファミリー・コンサート、LPOメンバーとのワークショップ、地域コミュニティでの音楽プロジェクト等を通して、あらゆる音楽作品を幅広い年代層の人々に紹介している。1992年にはロンドン・フィルハーモニック・ユース・オーケストラを設立し、若手の音楽家に実践の機会を与えている。





## ソプラノ：中村 智子

Soprano：TOMOKO NAKAMURA

1977年ドイツ・デトモルト国立音楽大学に入学、ヘルムート・クレチュマーに師事。1978年デトモルト歌劇場に「魔笛」の夜の女王役でデビュー、これを機に同歌劇場と客演契約を結び、ドイツ、オランダ各地でオリンピア、パミーナ、コンスタンツェ、ドンナ・アンナ、ミカエラ、ジルダ、蝶々夫人など、在学中に15以上のオペラ的主要な役に出演した。1982年同大学を首席で卒業。メンデルスゾーン・コンクール、ドイツ学生声楽コンクール、ミュンヘン国際音楽コンクールなどで上位入賞。1983年よりエリザベート・シュワルツコプフに師事。1985年ドイツ国家演奏家資格取得。1985年よりシュトゥットガルト国立歌劇場専属として活動するほか、ケルン歌劇場、ドレスデン国立歌劇場、エッセン歌劇場、フランス・ボルドー歌劇場などでも活躍。1993年にはウィーン国立歌劇場に「後宮からの逃走」のコンスタンツェでデビューし大成功を納めた。1989年より毎年オーストリアのホーエネムス・シューベルティアーデに出演。1991年よりザルツブルク祝祭大劇場にメンデルスゾーン「エアリア」、ロッシーニ「スタバト・マーテル」、モーツァルトのミサ曲等で数回出演するなどオペラばかりでなくオラトリオ・コンサート、歌曲リサイタル等でも幅広く活躍。日本へは夫のウーヴェ・ハイルマンと共に1996年に帰国し故郷鹿児島に居を構えている。以来日本での本格的活動を開始、夫のハイルマンとのデュオリサイタルの他、オーケストラとの共演も数多く、1997年12月には仙台フィル、名古屋フィル、東京交響楽団との「第九」、1998年には6月の読売日響（ジェフリー・テイ特指揮／ハイドン「四季」）、9月のNHK交響楽団（チョン・ミュンファン指揮／ヴェルディ「レクイエム」）、12月の読売日響「第九」、1999年5月に仙台フィル（ワーグナー「ヴェーゼンドククの歌」）、9月にNHK交響楽団（ロッシーニ「スタバト・マーテル」他）、12月に読売日響「第九」、2000年1月には日本フィル（ハイドン「天地創造」）に出演。12月にはNHK交響楽団「第九」への出演などが予定されている。CD録音にはベートーヴェン「第九」、ハイドン「天地創造」、ブリテン「戦争レクイエム」等がある。現在沖縄県立芸術大学助教授。



## メゾ・ソプラノ：永井 和子

Mezzo Soprano：KAZUKO NAGAI

1987年、ジュゼッペ・シノーポリに見出され、サントリーホール開館記念として行われた、フィルハーモニア管弦楽団によるオペラ・コンチェルト「蝶々夫人」のズズキに抜擢され絶賛された。この成功によりシノーポリにより引き続き、ベルリン・ドイツ・オペラ（蝶々夫人）、ヴェネチアのフェニーチェ劇場（パルジファル）、ローマのサンタ・チェチリア音楽院（ワルキューレ）に招かれ、いずれも高い評価を受け、本格的な海外での活動をはじめた。その後同氏とは内外でマーラーの交響曲のソリストとして共演を重ね、特にロンドンで行われた「千人の交響曲」は、コンサートの他にドイツ・グラモフォンによるレコーディングも行われ話題を呼んだ。また2000年1月ドレスデン国立歌劇場管弦楽団アジア・ツアーの際にはベートーヴェン「第九」のソリストに指名され東京、横浜、台北にて共演している。海外ではこの他にフィンランドのサヴォリンナ・オペラ・フェスティバル（ズズキ）、ローマの日本文化会館でのリサイタルに出演する等、わが国を代表するメゾ・ソプラノの一人として国際舞台での地位を築いている。国内では「シンデレラ」「カルメン」のタイトル・ロール、「セビリアの理髪師」のロジーナ、「イドメネオ」のイダマンテ、「運命の力」のプレツィオシルラ、「神々の黄昏」のフロスヒルデ等で、すでにオペラ歌手としての不動の名声を確立。W. サヴァリッシュ指揮／NHK交響楽団による「魔笛」の侍女、藤原歌劇団による「セビリアの理髪師」のロジーナ、二期会創立40周年記念公演「神々の黄昏」のフロスヒルデ、Bunkamuraオペラ劇場「マダム・バタフライ」（ミラノ初演版）および新国立劇場1998／99シーズン「蝶々夫人」のズズキ、團伊玖磨作曲「素戔鳴」のしろがね銀の姫（94年初演）、いずみホール マイ・ディア・アマデウス・シリーズ「コシ・ファン・トゥッテ」のデスピーナ等への出演で話題を呼ぶと共に高い評価を得ている。また新国立劇場開場記念公演「建・TAKERU」（團伊玖磨／97年10月上演）、長野オリンピック開催記念「信濃の国・善光寺物語」（松下功／98年1、3月上演）、「おんぼら御柱」（中村透／98年11月上演）などの新作オペラにも主役級として欠かせない存在となっている。

一方コンサート歌手としても、バッハ「マタイ受難曲」「クリスマス・オラトリオ」、モーツァルト「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」、ヴェルディ「レクイエム」、マーラー「交響曲第3番」「大地の歌」などでNHK交響楽団をはじめ各オーケストラと恒常的に共演しており、現代曲までをカバーするその安定した歌唱、多彩なレパートリーは貴重な存在としてマエストロ達からも厚い信頼を得ている。また本年4月には天皇・皇后両陛下御成婚40周年記念演奏会（桃華楽堂）にて御前演奏を行なう。中山悌一、伊藤京子、小松道子の各氏に師事。国立音楽大学および同大学院修了。オペラ研修所第4期修了。第1回川崎静子賞、第1回グローバル東敦子賞、第15回ジローオペラ賞、第2回村松賞、第19回民音コンクール第一位入賞など数々の賞に輝いている。CDには「マーラー：交響曲第8番（G.シノーポリ／フィルハーモニア管弦楽団）」（ドイツ・グラモフォン）、「マーラー：交響曲第3番（朝比奈隆／大阪フィルハーモニー交響楽団）」（ポニー・キャニオン）、「細川俊夫：ピロンの流れのほとりにて（高関健／東京都交響楽団）」（フォンテック）、「シェーンベルク：ヤコブの梯子（秋山和慶／東京交響楽団）」（フランス・モンテニュー／IMS）等がある。二期会会員。



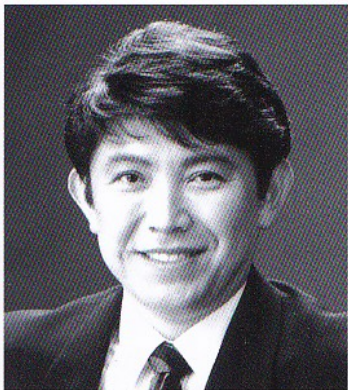


## テノール：ウーヴェ・ハイルマン

Tenor : UWE HEILMANN

1960年ドイツのダルムシュタットに生まれる。1980年からデトモルト国立音楽大学でヘルムート・クレチュマーに師事。21歳の時、デトモルト歌劇場で「魔笛」のタミーノでデビュー、続いて「ドン・ジョヴァンニ」のドン・オッターヴィオ、「ばらの騎士」のイタリア人歌手などをレパートリーとして活躍。1985年、ゲンネンヴァインに才能を認められ、シュトゥットガルト国立歌劇場のメンバーとなり、代役でタミーノを歌い絶賛を博した。こうしてモーツァルト・テノールとして頭角を現し、ジュネーヴ大劇場、ウィーン国立歌劇場、バイエルン国立歌劇場、ベルリン国立歌劇場に出演。1989年にはザルツブルク音楽祭にデビュー、またトロポリタン歌劇場にも「後宮からの逃走」のベルモンテでデビュー、ルートヴィヒスブルク音楽祭でも「魔弾の射手」のマックスを歌い大成功を収めた。主なオペラのレパートリーは上記の他、「皇帝ティトの慈悲」のタイトル・ロール、「エフゲニー・オネーギン」のレンスキー、「オテロ」のカシオ、「さまよえるオランダ人」の舵手など30以上にのぼる。これまでにセルジュ・チェリビダッケ、サー・ゲオルグ・ショルティ、カルロ・マリア・ジュリーニ、ダニエル・バレンボイム、サー・コリン・デイヴィス、ニコラス・アーノンクール、若杉弘、小澤征爾等著名な指揮者と共演。コンサート歌手、リート歌手としての活躍もめざましく、1990年のホーエネムス・シューベルティアードでのシューベルトの歌曲集「美しき水車小屋の娘」は賞賛され大成功を収めた。ソロCDにはジェームズ・レヴァインのピアノによる「美しき水車小屋の娘」、ペーター・シュライヤー指揮／ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管との共演による「宗教曲テノール・アリア集」（共にロンドン／ポリドール）があり、モーツァルトをはじめとする膨大な数のオペラ・レコーディングに参加している。最新録音としてはチェチャーリア・バルトリ、クリストファー・ホグウッド指揮／エンシェント室内管と共演したハイドンの歌劇「オルフェオとエウリディーチェ」のオルフェオ役（オワゾリアル／ポリドール）、クラウディオ・アバド指揮／ヨーロッパ室内管とのモーツァルトの歌劇「ドン・ジョヴァンニ」のドン・オッターヴィオ役（ドイツ・グラモフォン／ポリドール）がある。

1996年より夫人のソプラノ歌手、中村智子と共に、夫人の郷里鹿児島に居を構えている。同年10月のベルリン・フィルハーモニー管弦楽団来日公演には、クラウディオ・アバドの要請によりベートーヴェン「第九」のソリストとして出演、高い評価を得た。以来日本での本格的な演奏活動を開始、中村智子とのデュオリサイタルの他、オーケストラとの共演も数多く、1997年12月には仙台フィル、名古屋フィル、東京交響楽団との「第九」、1998年と99年12月には読売日響との「第九」に出演。2000年1月には日本フィル（ハイドン「天地創造」）に出演。2000年12月にはNHK交響楽団「第九」へ出演。現在、沖縄県立芸術大学教授、エリザベト音楽大学客員教授。



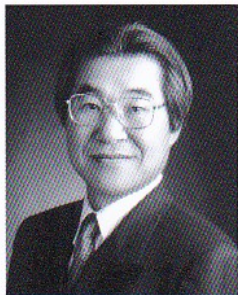
## バリトン：河野 克典

Bariton : KATSUNORI KONO

山口県出身。東京芸術大学大学院終了。ドイツ政府給費留学生（DAAD）としてミュンヘン国立音楽大学に学び、その後ウィーン国立歌劇場研究員として研鑽を積む。第43回ジュネーヴ国際音楽コンクール声楽部門第2位（1位なし）、第37回ヘルトゲンボシュ国際声楽コンクール歌曲部門第1位、ザルツブルク市賞など数々の賞に輝く。ライン音楽祭、ザルツブルク音楽祭、アムステルダム・コンセルトヘボウ、その他ヨーロッパ各地でのリサイタルをはじめ、オペラ、オーケストラ、宗教曲の公演に数多く出演。日本国内ではソニー音楽芸術振興会主催「Performance Today」でデビュー。若杉弘指揮のN響定期演奏会において、マーラーの《さすらう若人の歌》を歌い、その瑞々しい歌唱力が絶賛された。日本の主要なオーケストラとの共演も多く、小澤征爾、ケント・ナガノをはじめ内外の数多くの指揮者と共演している。彼のドイツ歌曲の演奏については、フィッシャー＝ディースカウが「素晴らしい解釈と驚くべき集中力でリートを演奏する」（音楽雑誌『Schott』）と賞賛している。清水和音との共演による97年10月の紀尾井ホールでのリサイタルは、「表情豊かなバリトン」「ドイツ・リートを楽しむを満喫させてくれた独唱会」と絶賛を博した。99年2月、東京フィルハーモニー交響楽団「オペラコンチェルト・シリーズ」でのR.シュトラウス《無口な女》の理髪師役の成功で、また彼の實力を大きく示すこととなった。99年から2000年にかけて「歌・三夜一夜物語」というリサイタルシリーズを行い、好評を博した。

2001年1月31日にはシューベルト「冬の旅」の再演を行う。（ピアノ 清水和音）。また、今秋にはカメラータウキョウよりベートーヴェン、シューベルト、シューマンの歌曲を集めたCDを発売予定である。今後もますますの活躍が期待されている。





### 合唱指揮：岡本 俊久

Chief Chorus Master : TOSHIHISA OKAMOTO

早稲田大学在学中より、同大学グリークラブの学生指揮者として、定期演奏会やアメリカ演奏旅行などで活躍する。指揮法を手塚幸紀、小林研一郎の両氏に師事する。1974年、プロ合唱団「日本合唱協会」に入団。1977年、NHK東京放送合唱団を指揮、以来多くの邦人合唱曲の初演を指揮する。

バッハ、モーツァルトなどを得意のレパートリーとし、最近では新星日本交響楽団、東京交響楽団などオーケストラとの共演も多い。武蔵野合唱団常任指揮者、日本フィルハーモニー協会合唱団常任指揮者を経て、1995年、「東京オラトリエンコール」を結成。昨年8月、同合唱団を率いての三度目のドイツ演奏旅行では、ライプツィヒ聖トーマス教会の礼拝の演奏を指揮し、好評を得る。他に、各地の合唱団の指揮、指導にあたる。パイオニア合唱団は創団当時から指導にあたっている。現在、「日本合唱協会」指揮者。「NS-4クワトロ」メンバー。



### 合唱指導：國土 潤一

Chorus Master : JUNICHI KOKUDO

東京芸術大学声楽科卒業。同大学院修士課程（独唱テノール専攻）修了後、デトモルト国立音楽大学に留学。声楽を伊藤亘行、川村英司、テオ・リンデンバウム、リヒャルト・ホルムの各氏にドイツ語舞台朗読法をハンス・クールマン氏に、合唱指導法を田中信昭氏に師事。

1987年に帰国後、ドイツ歌曲を中心とした演奏活動のほか、各地での合唱指揮、指導をはじめとする指揮、更に「レコード芸術」誌（新譜オペラ担当）、読売新聞文化欄（演奏会評）等を中心とした評論活動も行なっている。現在、武蔵野美術大学講師。「これがオペラだ／上手な楽しみ方とその知識」「ON BOOKS ベスト・オブ・クラシック CD名曲名盤100／声楽曲」（共に音楽之友社）をはじめ著書多数。

パイオニア合唱団には、1997年のパイオニア交響楽団とのベートーヴェンの第9交響曲公演から招かれ、指導陣に加わっている。



### 合唱：パイオニア合唱団

Chorus : PIONEER HARMONISCHER CHOR

パイオニア株式会社とパイオニアグループ社員を核に結成された創団6年目の合唱団。結成の動機は同じ母体から生まれたパイオニア交響楽団とのモーツァルトの「レクイエム」であり、岡本俊久の指揮で東京芸術劇場に立ち鮮烈な印象を残す。その後音楽に関わる企業の豊かな風土と背景を生かし、(財)日本オペラ振興会などのご協力も得ながらパイオニア・ミュージック・コンサートを主催し、名曲を紹介し続けている。更に日本フィルハーモニー交響楽団の公式プログラム、ヴォーン・ウィリアムズの「海の交響曲」、ベートーヴェンの第九など真価の間われる演奏会をこなした。また団員の意思で社会貢献活動も大切に、日黒区民まつりのファミリーコンサートにも毎年出演している。LP Oとの共演は数年来の夢であり大きな喜びである。



【ソプラノ】

会田 紀子 ○	遠藤 良子 ○	佐藤 真理子	寺田 万里 ○	藤本 節子
麻生 薫子 ○	大上 愛子	塩崎 禎子	戸田 淑子	星 雅惠
阿波田のぞみ	大上 雅子	渋谷 由美子 ○	富宇加多恵	馬日 藤美 ○
安藤 千恵子 ○	大崎 由佳里 ○	菅原 節子 ○	中山美和子	嶺田 恵子
飯窪 恭子 ○	笠井 加代子 ○	杉本 悦子 ○	西 麻由美 ○	峯村 弥子
飯山 啓子	梶山 麻美 ○	鈴木 絵麻 ○	野口 希映	村上 美智子
池田 久美子	片山 弘美	瀬戸 雅子	橋本 洋子	八木 陽子 ○
石井 苗子	加藤 美奈子	園山 紗絵子	野口 幸代	山縣 洋子 ○
石橋 裕子 ○	加藤 令子 ○	高野 清美	長谷川三希子	和田 由美子
伊藤 美喜	金田 栄子	高橋 紀子 ○	長谷鳥奈緒	渡邊 真理子
岩田 いち子 ○	亀井 泰子	高橋 裕美 ○	秦 桂子	
宇田川 文子 ○	加門 千明 ○	田川 雅子 ○	馬場 千晴	
内野 英子	川上 裕美子 ○	田中 真木子 ○	原田 華	
鶴沼 信子	齋藤 早百合	粒来 好子 ○	藤卷 留理子	

【アルト】

秋吉 英理子	加賀 京子 ○	高木 邦子 ○	中道 尚子	真栄田友紀子
荒川 千波 ○	川口 多紀子 ○	高橋 玲子	中村 公子 ○	松本 勝美 ○
安藤 慶子 ○	気賀 容子	高林 陸美	中村 たみ子	水沢 教子 ○
飯田 道子	熊沢 侑子	田口 登美子 ○	西山 博子	宮島 友子 ○
石田 ときえ	小寺 美穂	武井 圭子 ○	野村 和子 ○	宮武 紀美子 ○
伊牟田伊勢子 ○	斎藤 明美 ○	田中 昌子	萩原 和子 ○	本橋 英子
岩本 典子 ○	齋藤 智子	田中 靖子 ○	服部 洋子	森本 和代
大竹 昌子	酒井 真紀子 ○	辻 寿賀子	服部 美千代 ○	山川 順子
大屋 祥子	篠竹 秀子 ○	辻 富子	浜野 裕子	山口 恵子 ○
小川 路得子 ○	柴田 涼子 ○	津野 順子 ○	早瀬 永子	横田 千寿子 ○
小原 優子	島崎 美智子	鶴木 禮子 ○	平井 美智子	了戒 美江
尾本 みどり ○	清水 啓子	中里 順子	藤田 寿子	了戒 洋子
及部 信子 ○	清水 芳枝 ○	中澤 恢子 ○	堀内 信子 ○	

【テノール】

阿部 幹男	落合 巨行	酒卷 英俊 ○	秦 伸介	安本 拓治
飯島 彰夫	小牟田都之男	清水 徳雄	マイク・ウインター ○	柳澤 智 ○
伊藤 秀昭	柿野 秀明 ○	鈴木 幸太郎	松永 保真 ○	横田 堯 ○
魚部 敦	久保 快哉 ○	高羽 修 ○	松藤 敏郎 ○	吉田 克己
鶴沼 佑介	久保 正義 ○	竹内 文彦	馬波 忠嗣	吉村 啓
大塚 忠彦	小林 晃	鳥光 信昭	宮下 秀邦	
大原 正昭 ○	小松 芳	永井 賢 ○	三輪 典司 ○	
岡芹 孝行	小谷野進司 ○	並河 泰司	八木 昭治 ○	

【バス】

青木 嗣夫	小澤 和也 ○	佐藤 正忠	高砂 顕 ○	西卷 昭
赤塚 桂	小原 慶次 ○	佐藤 康一郎	高野 和雄	長谷川喜吉 ○
浅見 隆平	及部 盛互 ○	佐藤 豊 ○	高橋 博行 ○	深谷 純一 ○
阿波田 尚 ○	河端 政夫 ○	佐藤 義時	田中 剛	藤野 一郎 ○
飯島 達夫 ○	菊池 衛 ○	柴田 徇也 ○	田中 久夫	藤本 光利
池谷 吉史 ○	木田 浩二 ○	菅 真一	田中 不二夫 ○	圓山 芳則
石川 進一 ○	桑江 敏雄	鈴木 克身 ○	田村 祥之	宗方 素 ○
石原 昌義 ○	小池 慎一 ○	鈴木 道典 ○	鶴木 慈郎 ○	元吉 健二 ○
小笠原 眞二 ○	小坂 敏之 ○	園山 繁俊	豊崎 義裕	柳原 克忠 ○
小倉 信一	酒井 雍憲 ○	高丘 毅 ○	中瀬 日佐男	山田 尚行 ○





## 合唱指導：佐々木 正利

Chorus Master : MASATOSHI SASAKI

東京芸術大学声楽科卒業。同大学院修士及び博士後期課程修了。1973年にバッハ・クリスマスオラトリオの福音史家で楽壇デビュー。79年ドイツに渡り、80年第6回ライプツヒ国際バッハ・コンクール声楽部門第5位入賞。同年より82年までデットモルト北西ドイツ音楽大学に学ぶ。在独中は欧州各国の演奏会に招かれ、特に80年ウィーン楽友協会ホールでのマイ受難曲では『若き日のP・シュライヤー』と新聞各紙で絶賛される。帰国後も世界、日本の著名オーケストラのソリストとして起用される。また世界的バッハ指揮者であるH.ヴインシャーマン率いるドイツ・バッハゾリステンの演奏会を初め、幾多の演奏会に出演して信頼を勝ち得ている。85年ザルツブルク音楽祭に招かれ、バッハ・マニフィカト等で絶賛を博した。現在までリサイタル21回を数え、レコード・CDも多数リリース、またテレビ、FM等にも度々出演している。

70年東京芸大バッハ・カンタータ・クラブの創設に携わり、多くの後進を育てるとともに指揮者としての活動を開始。以後、約30年にわたって主に宗教曲の演奏に牙をみせ、そのいずれもが名演の誉れ高い。特に盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、仙台宗教音楽合唱団等を率いての7度にわたるドイツ公演では『シュツツ、バッハの世界的担い手』とした最大級の賛辞が新聞各紙に掲載される。94年長年にわたる顕著な演奏・教育の業績に対し、第47回岩手日報文化賞(学芸部門)が贈られ、99年8月にはアメリカイオンド大学より名誉博士号が授与された。岩手大学教育学部音楽科教授。二期会会員。グルッペ・ベッヒライン会員。日本声楽発声学会理事。日本発声指導者協会常任理事。仙台バッハ・アカデミー理事。盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、仙台宗教音楽合唱団、岡山バッハ・カンタータ協会、岩手大学合唱団、東北大学混声合唱団各常任指揮者。



## 合唱：盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

Chorus : MORIOKA BACH KANTATEN VEREIN

1977年「カンタータを歌う会」として発足。以来、一貫してJ.S.バッハの作品を中心としたドイツ・バロック合唱曲の研究、演奏を行っている。その演奏が、91年ドイツにおいて「作品の語感、音、そして精神の完熟」という現地新聞の批評を受けるに至るまでには常任指揮者、佐々木正利のドイツ・バロック音楽に対する卓越した見識に基づく、熱意溢れる指導の積み重ねがあった。佐々木は超一流のエヴァンゲリストとして評価されるその発音、語感、様式感をもう一つのライフワークである合唱団の育成に注ぎ込み、その結果「言葉が生きる」と「音楽が生きる」とは歌の世界では同義語である」というカンタータ・フェラインの音楽信条が演奏上の身上となるに至ったのである。

その後、H.ヴインシャーマン、H.J.ロツチュ、J.ツィルヒ、岩城宏之等、世界的指揮者との共演を重ね、各指揮者より、ドイツ・バロック音楽を音楽的かつ人間的に表現できる合唱団として、熱い評価を得るようになった。この評価は、声の充実を追求する合唱団や、古楽器的な歌唱法を駆使して鮮烈な表現を目指す合唱団に与えられるものとは性格を異にする。温かい音色を基調としながら、音楽の刻々と変化する様相を、その時々に対応しいニュアンスで大胆かつ繊細に、確信を持って表現し切ろうとする、あくまで人間バッハへの共感を基調とする合唱団に対してのものなのである。



【ソプラノ】

浅沼 友絵  
浅沼 寛子  
石岡 裕子  
大石 敦子  
大川 敦子  
小笠原 香澄  
小澤 めぐみ  
尾友 佳子  
小野寺 貴子  
加藤 真香

菊池 節子  
熊谷 充代  
斉藤 純子  
佐々木 玲子  
佐藤 千砂  
澤田 東子  
鹿内 夏子  
菅原 亜希  
高橋 聡子  
玉山 奈々

田村 いずみ  
丹野 貞子  
千田 雅子  
土室 千春  
豊岡 真実  
軒 多賀子  
桧森 綾子  
平野 泰子  
福田 温子  
藤澤 智子

藤原 恵理子  
細田 彩子  
三原 佳織  
宮古 朋枝  
守口 由美子  
矢幅 嘉子  
横内 愛理  
渡辺 真理子

【アルト】

伊藤 三恵  
扇田 暁子  
岡田 ゆみ  
小川 暁美  
小川 暁子  
小田島 千恵  
小野寺 洋子  
金子 千鶴  
兼田 紀美子

菊池 敏子  
菊池 葉子  
桐原 絹子  
工藤 由紀  
児玉 尚美  
今野 早苗  
佐々木 美智子  
佐藤 公  
佐藤 恵

柴田 映子  
須川 加奈子  
鈴木 栄見子  
鈴木 英美  
高橋 孝子  
武田 敏恵  
丹野 まり  
早川 美美子  
原 穂波

平井 良子  
廣瀬 利津子  
廣田 幸子  
福田 祐子  
松田 保子  
村上 殖子  
茂木 容子  
谷地 晶子  
渡辺 しをり

【テノール】

太田 穎則  
小川 隆弘  
小山内 薫  
鏡 貴之  
加藤 進也

加藤 照道  
金野 達徳  
斉藤 健  
嵯峨 文裕  
佐々木 和義

佐々木 正利  
佐々木 幹雄  
高橋 真哉  
中川 喜之  
中野 寛司

羽田 耕太郎  
三原 正敏  
目黒 賢哉  
吉村 哲

【バス】

赤塚 貴史  
大宮 一弥  
小原 一穂  
小原 竜太  
佐々木 直樹

佐藤 浩紀  
佐藤 芳郎  
田沢 隆  
千田 敬之夫  
芳賀 郁夫

藤村 誠毅  
松岡 静一  
大和 敏憲  
横山 泉  
吉田 俊彦

若林 敦盛  
渡辺 信之





KAMBARA MUSIC OFFICE,LTD.